

ノーベル平和賞を受賞した グラミン銀行を支えた日本のODA

グラミン銀行とは:



ムハマド・ユヌス氏

Bangladesh の農村で、土地を所有しない貧困層、特に女性の生活を支援するために小規模金融(マイクロファイナンス)を行う銀行です。創立以来、返済率は9割以上、総融資額は57.2億ドル(2006年8月現在)に上ります。貧困層の自立基盤を支援してきたことが評価され、総裁であるムハマド・ユヌス氏とともに2006年のノーベル平和賞を受賞しました。

グラミン銀行の活動には、日本のODAが貢献しています。

来日したユヌス総裁の言葉 (2006年10月米国国連財団開催 日本と「人間の安全保障」シンポジウム)

「日本から供与されたODAは、住宅関連ローンとして使われました。農民からの返済資金は、その後も途切れることなく、新たな住宅関連ローンの原資に活用され、貧困層に役立っています。今や、グラミン銀行は、十分な資金を有することができ、他ドナーの資金的な援助を受ける必要がないぐらいの大きな銀行に成長しました。」

円借款による日本の支援



Bangladesh の農村女性たち

1. 案件名: グラミン銀行による農村開発信用計画
2. 供与限度額: 29億8,600万円(1995~98年)
3. 事業内容:
 - 円借款の資金はグラミン銀行の第4次計画(事業拡大計画)の原資として以下のための融資に使われました。
 - ・小規模事業の展開(リキシャ、養殖等)
 - ・住宅改修
 - ・井戸及びトイレの建設
4. 事業効果:
 - ・貧困層の生活の向上
 - ・女性の地位向上
 - ・グラミン銀行の事業拡大を通じた経営強化



借り入れ資金で開店した雑貨屋

グラミン銀行と日本の支援

2006年のノーベル平和賞を受賞したグラミン銀行は、貧困層の自立を支援することを目的とし、主に土地を所有しない貧困層を対象に小規模融資（マイクロ・ファイナンス）を行う銀行で、1983年にバングラデシュ政府が認可した特殊銀行として創設されました。

グラミン銀行の融資では、融資を受ける人が5人1組によるグループを形成し、返済計画などについて互いに相談できるような体制を作ったり、預金を奨励したり、銀行員が週に1回農村を訪問して資金を回収したりといった独特な方式を採用しています。こうしたグラミン銀行の提示した新たなモデルは世界中に広がり、世界の貧困削減に多大な貢献をしたと高く評価されています。

現在ではドナーの支援を必要としない自立した銀行になっていますが、日本が円借款によってグラミン銀行の活動を支援したのは、まさにグラミン銀行が第4次計画を策定し、その事業規模を拡大しようとしていた1995年のことです。日本はその年、バングラデシュ政府と交換公文を締結し、「グラミン銀行による農村開発信用計画」として総額29億8,600万円の資金を供与しました。この資金は98年までの間にグラミン銀行を通じて、貧困にあえぐ人々に融資され、11万4,000件の家内制手工業などの家屋、2万4,000カ所の簡易トイレ、2万7,000カ所の井戸が設置され、1万1,000件の生産機器などの資本財が購入されました。

第三者評価によると、トイレや井戸の設置により貧しい住民の生活環境が改善された他、資本財を購入して自営業を営むことにより経済的自立が促進されたといった効果が確認されています。また、融資対象の94%が女性であったことから、女性の家庭や社会での地位向上にも効果があったといわれています。

・ [日本のマイクロ・ファイナンスへの支援 \(PDF\)](#)